

Tea Containers and Tea Bowls: Through the Eyes of a Connoisseur

企画展

茶入 茶碗 と



『大正名器鑑』の世界

古くから茶人に大切に扱われてきた茶入。手に取って親しむことで、一層愛着が増す茶碗。茶入と茶碗は、今日の茶の湯で最も人気の高い道具と言えるでしょう。この二つの道具が重視されている理由に、大正10年(1921)より刊行が始まった『大正名器鑑』(全9編11冊)の存在があります。茶人のための大名物図鑑ともいうべきこの本で、茶入と茶碗(天目を含む)に限り、875点もの伝世品が名物として取り上げられました。銘の由来、大名物・名物・中興名物などの名物の分類、寸法、付属品、伝来、実見記、写真などさまざまな情報が記された『大正名器鑑』によって、茶入と茶碗は観賞ポイントが明確に示されたのです。

『大正名器鑑』を編纂した高橋義雄(1861~1937、号箒庵)と、当館コレクションの礎を築いた初代・根津嘉一郎(1860~1940、号青山)は茶の湯を通しての盟友でした。箒庵は自らを嘉一郎の茶の湯の「後援者」と称し、また嘉一郎は箒庵を良きアドバイザーとして全幅の信頼を置きます。最後の第九編が発行されてのち、昭和4年(1929)に箒庵の慰労会を主催したのも嘉一郎でした。

このたび根津美術館では、刊行百年を記念し、企画展「茶入と茶碗―『大正名器鑑』の世界―」を開催します。本展覧会では『大正名器鑑』の成立過程を概観しながら、館蔵の茶入と茶碗の名品をご堪能いただきます。また、その刊行関連行事で用いられた作品を通して、編者の高橋箒庵と初代・根津嘉一郎の厚い友情にもスポットを当てます。

大海茶入 銘敷島大海 瀬戸 日本・室町時代 16世紀
重要文化財 磁手茶碗 銘長崎 朝鮮・朝鮮時代 16~17世紀
『大正名器鑑』(初版本) 高橋義雄(箒庵)編 日本・大正10年~昭和2年(1921~27)
いずれも根津美術館蔵

2021年5月29日(土)~7月11日(日)

日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM





『大正名器鑑』 編者
高橋義雄（1861～1937、号 箒庵）

水戸藩士の四男に生まれる。慶應義塾卒業後は新聞記者として活躍。後に実業界に入り、三井呉服店、王子製紙などで重役を務める。50歳で引退し、以降は茶の湯を中心に趣味の世界に生きた。『東都茶会記』や『大正名器鑑』など茶の湯に関する著作を多く残す。



『大正名器鑑』（初版本）
高橋義雄（箒庵）編
全9編 11冊、索引
日本・大正10年～昭和2年（1921～27）
根津美術館蔵

大正10年から5年あまりで、全9編 11冊および索引を刊行。初版本 400部は、引き出しのある漆塗りの木箱2箱に納められる。助手・高橋龍雄（梅園）収集の文献資料集や写真技師・長谷川清七郎の写真図版、木版技師・川面義雄の木版彩色図版も見どころ。

—名家所蔵の名品が並ぶ—



重要文化財
かたつきちやいれ まつや
肩衝茶入 銘 松屋
福州窯系 1口
中国・南宋～元時代
13～14世紀
根津美術館蔵

唐物の肩衝形は最も重んじられる茶入。『大正名器鑑』では第一編の冒頭に置かれる。なかでも、背の低さと、胴の強い張りが珍しく、古くから知られるこの茶入は、折り込みを含み、9ページにも渡って取り上げられている。島津忠重旧蔵。



重要文化財
かたで ちやわん ながさき
堅手茶碗 銘 長崎
1口
朝鮮・朝鮮時代
16～17世紀
根津美術館蔵

古来、堅手茶碗の名品として知られ、長崎久太夫から小堀遠州、大徳寺孤篷庵、松平不昧へと伝来。ひずんだ口縁部より、箒庵は「堅手茶碗としては大寂物」と評した。松平直亮旧蔵。



ちやきじっけんき
茶器実見記
高橋箒庵筆
1冊 紙本墨書
日本・大正7年（1918）頃
慶應義塾図書館蔵
*会期中ページ替えあり

大正7年（1918）、編者の箒庵が松江市の雲州松平家を訪れ、所蔵の茶入と茶碗を実見した時の調書。箒庵がどのように茶器を見分したのかが見て取れる。このページで取り上げられた「銘村雨」の茶入は、その後、根津嘉一郎の手に渡った。



たまかしわでちやいれ むらさめ
玉柏手茶入 銘 村雨
瀬戸 1口
日本・桃山～江戸時代
16～17世紀
根津美術館蔵

胴の中段がややくびれた玉柏手の茶入。特徴的な釉薬の流れについての『大正名器鑑』の解説文「一條の雲霧の下より上に向かって立ち登りたるが如き景色」は、左掲の「茶器実見記」を元に書かれたことが分かる。松平直亮旧蔵。



重要文化財
ねずみしのちやわん 銘 山の端
鼠志野茶碗
美濃 1口
日本・桃山～江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

歪みのある形や大胆な文様が魅力的な桃山様式の鼠志野の茶碗。大正9年（1920）7月7日、根津嘉一郎邸にて本茶碗の調査および撮影がなされた。



重要文化財
あまもりちやわん
雨漏茶碗
1口
朝鮮・朝鮮時代 16世紀
根津美術館蔵

薄作りでしっとりとした肌。雨漏茶碗の白眉とされる。『大正名器鑑』刊行時は姫路酒井家所蔵であったが、後に根津嘉一郎の手に渡る。酒井忠正旧蔵。

—茶友をねぎらう名品の数々—

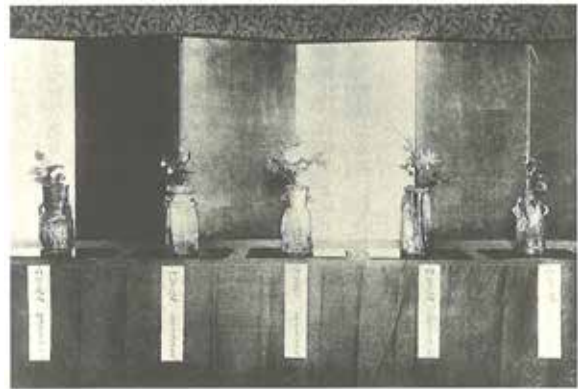
高橋箒庵と初代・根津嘉一郎（青山）の交流



初代・根津嘉一郎
(1860～1940、号青山)

年齢の近い二人は、明治末期ごろより、赤坂と青山にあったそれぞれの邸宅を行き来し、茶の湯を通して交流を深めた。嘉一郎は、茶の湯に詳しい箒庵の見識を信頼して折々に相談し、また箒庵旧蔵のいくつかの道具を直接譲り受けた。盟友・箒庵と共に、

茶の湯の世界を楽しんだ嘉一郎の茶道具のコレクションには、まさに『大正名器鑑』の世界が映し出されていると言える。

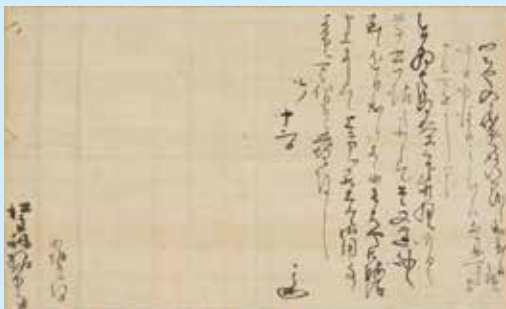


『高橋箒庵翁編纂大正名器鑑完成慰勞会記』より転載

全9編刊行後の昭和4年（1929）4月17日、根津嘉一郎が中心となって開いた箒庵翁慰勞会では、関係者所蔵の伊賀花入5点が陳列された。左端が嘉一郎所蔵の「銘 寿老人」（現 根津美術館蔵）。

展示室5 茶人たちの手紙

茶会の誘いや、茶道具の贈答・鑑定依頼など、茶人たちの手紙を読み解くことで、かれらの人となりや交友関係の実態を探ります。



しょうそく 小堀遠州筆
1幅 紙本墨書
日本・江戸時代
17世紀
根津美術館蔵

小堀遠州から三河吉田藩主松平忠利に宛てた消息。文面より、遠州が忠利から茶入の仕覆の縫いなおしを依頼されていたことがわかる。

同時開催展

展示室6 梅雨時の茶

長雨により、ともすれば陰鬱になる梅雨時。茶の湯では、あえて雨や水にちなんだ道具を取り合わせることで、この季節に心を寄せます。



あんなんしぼりてりゅうもんみずさし
安南絞手龍文水指
1口
ベトナム 17世紀
根津美術館蔵

呉須（コバルト）が滲み、文様が流れた染付を「絞手」と称する。胴部の右側に飛翔する龍の文様が描かれたこの水指は、ベトナム（安南）で作られたもの。

開催概要

展覧会名	企画展 「茶入と茶碗 —『大正名器鑑』の世界—」
	日時指定予約制 ご来館前までに当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
主催	根津美術館
開催期間	2021年5月29日 [土]～7月11日 [日]
開館時間	午前10時～午後5時 (入館は閉館30分前まで。)
休館日	毎週月曜日
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) 当日券〈窓口販売〉 一般 1400円(1200円) 学生 1100円(900円)

※当日券は、予定枚数の販売が終了している場合があります。

※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より 徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	根津美術館 学芸部広報課 Tel. 03-3400-2536 (代表) website http://www.nezu-muse.or.jp

広報制作物のメール配信のお知らせ

当館の広報制作物のメール配信を開始しました。従来の郵送から、メール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報課 (press@nezu-muse.or.jp) へどうぞお知らせください。なお、郵送とメール配信の併用はご容赦ください。

次回展 企画展「花を愛で、月を望む —日本の自然と美—」2021年7月22日(木・祝)～8月22日(日)

古来人々は自然に親しみ、花鳥風月に託してその美しさをたたえました。日本の自然美を象徴するモチーフが表された書画や工芸品をご覧ください。

武蔵野図屏風(左隻)
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



同時開催：
展示室5 「つわものの姿」
展示室6 「夏点前 —涼みの茶—」

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2021.2.)